ママさんレポート

先端技術とやさしい自然が調和する。

テクノ・リサーチパーク

世界に開かれた先端技術・情報都市の実現を目指して、熊本テクノポリスの建設は着実に進んでいます。

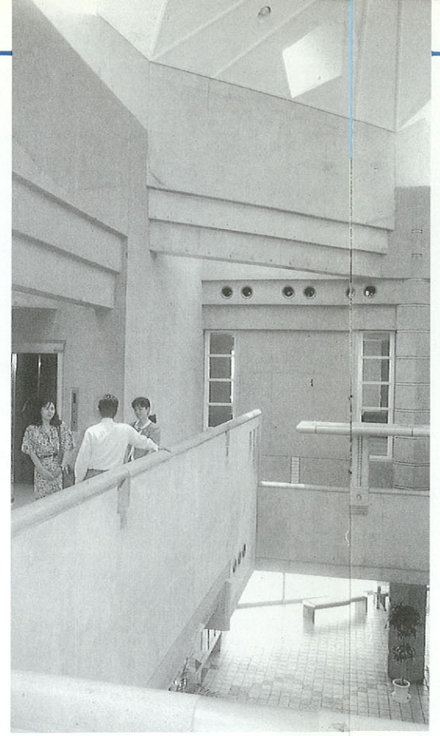
産業・学術・住空間が一体となった調和のある「まちづくり」。その中核的研究開発拠点となるのが、阿蘇外輪山西麓の高遊原台地にある「テクノ・リサーチパーク」です。ここでは、テクノポリスセンター[※注1]をはじめ、電子応用機械技術研究所[※注2]や熊本大学地域共同研究センター[※注3]など、産・学・行政が一体となって、人材の育成や技術の研究開発に当たっています。四月には、同パーク内にテクノ中央緑地が完成し、より開かれた〝緑の中の研究所公園〟にふさわしいものとなりました。

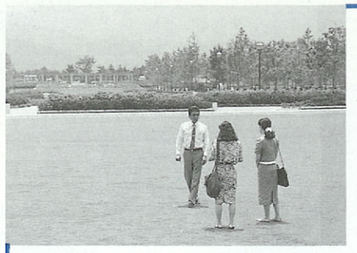
そこで今回は、熊本の最先端の設備を中心に二人のママさん特派員がリポートしました。

※注1「テクノポリスセンター」
熊本テクノポリスの中核的拠点施設。熊本テクノポリス財団が運営し、情報発信・人材の育成・広報交流の中心となる役割を果たしている。

※注2「電子応用機械技術研究所」（電応研）
熊本テクノポリス財団の附属研究所。県内企業の技術開発支援のため、研究開発、研究施設・設備の開放、人材育成等を行う。

※注3「熊本大学地域共同研究センター」
大学と民間企業の共同研究・交流拠点施設。地域社会における技術発展・技術教育の促進を図るため設置された。





堤　今、ここ、テクノ・リサーチパークには、先端企業の研究所もどんどんはいってきているようです。約三百五十人の人達が働いていると聞きました。全体が完成する頃にはなんと千人にもなるんですって。とても大きな研究施設になりますよね。

吉田　〝テクノポリス〟という言葉自体は、新聞やテレビなどで、なじんでしまったけど、なんだか難しそうで…。今日ここに来るまでは、それが実際に体験出来るものだなんて思ってもみませんでした。

堤 早苗さん

堤　そう。一般に開放されてるってことが、案外知られてないんじゃないかしら。私には息子が二人いるけど、近所だったら毎日でも連れて来たい。テクノポリスセンターでは、パソコンとかテレビ会議システムなどいろいろな先端技術をじかに体験できるんです。特に似顔絵ロボットは、私も書いてもらったんですが、本当によく似てていおみやげになりました。

吉田　自動演奏ピアノにもびっくりしましたよね。

堤　今日帰って、息子に話すことがいっぱいできました。息子もきっとドキドキして眠れなくなるんじゃないかしら。

吉田 栄里子さん

吉田　子どもの方が熱心ですものね。

堤　私も興味はあるんだけど、機械に対するアレルギーっていうのかしら。実際に触るのに少し抵抗があるんですよね。その点、子どもは好奇心が旺盛で、かえって早く吸収しちゃう。

吉田　小学校五、六年生にもなると、将来の夢について考えるでしょう。そういう子どもたちをここに連れてくるといい。もっともっと夢が広がるし、やりたいこともどんどん出てくるかもしれない。

堤　何十年後かには、自分の息子や娘たちがここで働いていたりするかも。今日センターには、電応研からの研修生も来てました。テクノ大学という一般の人も研修できるような制度もあって、ワープロとかパソコンなんかの通信講座も受けられるそうだから、私も受けてみようかしら。

吉田　そんなふうに考えると〝テクノポリス〟も意外に身近なものなんだなと思えてくる。それに、完成したばかりのテクノ中央緑地は広々として、とっても気持ちいいですしね。

堤　快適な環境の中で仕事が出来るって、うらやましい。これからは、仕事をしたり生活するうえで、潤いや安らぎのある空間が必要なんだと思いました。〝テクノポリス〟って技術や頭脳だけじゃないんですね。

吉田　まず、ここに来て、見て、触れてみる。でないと〝テクノポリス〟のすばらしさは分からない。

堤　レストランもあるし、一日中楽しめそう。ハイキング気分で来れるところだと思います。今度は家族と一緒に来たいですね。

TECHNO
RESEARCH PARK